

熊本大学附属図書館報

東光原 39

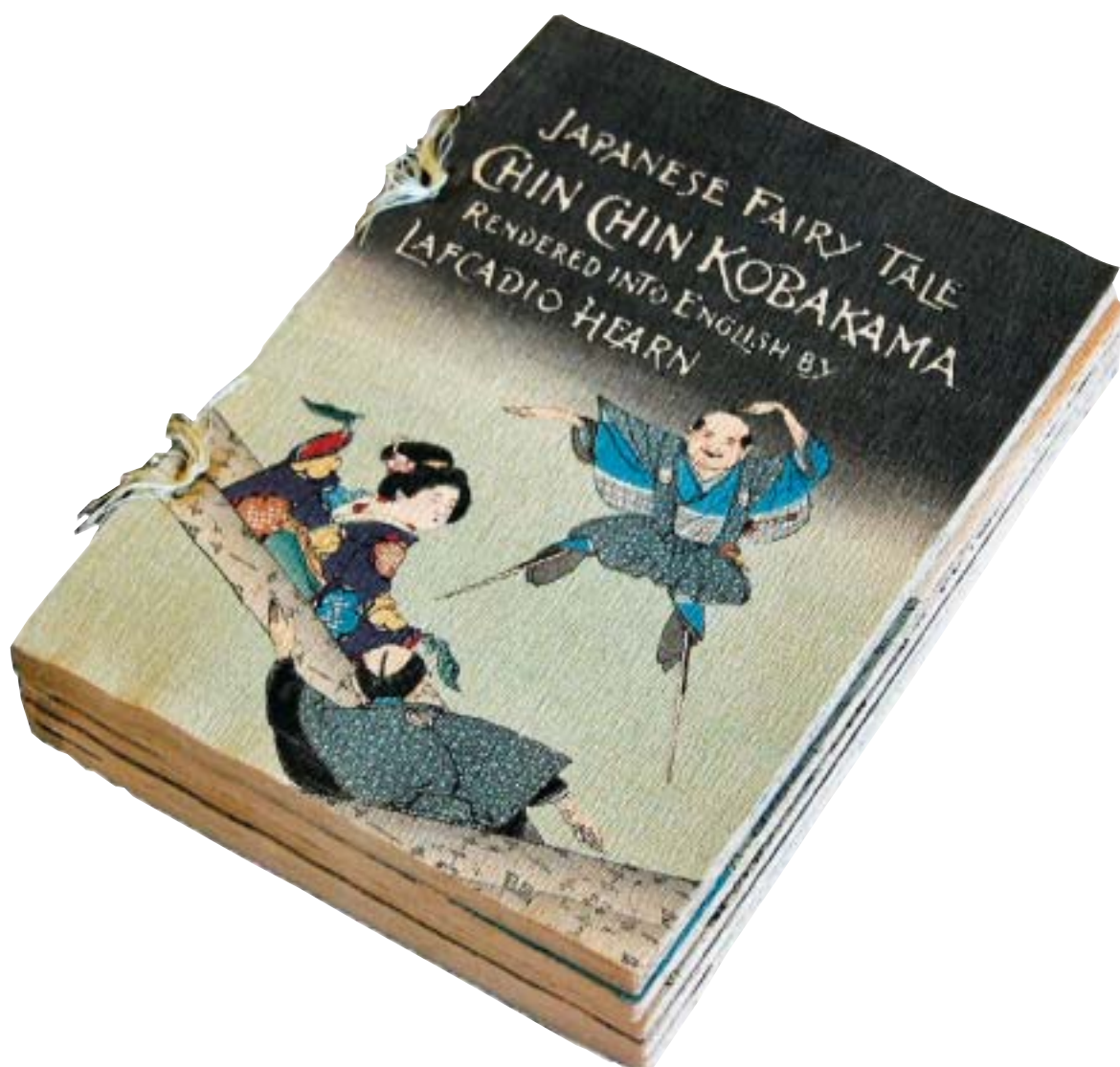
Kumamoto University Library Bulletin

ISSN 0917-7604

<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>

July 2004

特集 電子ジャーナル Shock!



岩岡中正

(1) 仙台にて一晩翠草堂のこと

学会で久しぶりに仙台へ行った。青葉城を散歩して戻ると、ホテルの目の前に土井晩翠の晩翠草堂があった。晩翠は、私の専門にも少し近い英文学者で、カーライルやバイロンの翻訳で有名だ。もちろん「荒城の月」で知られる詩人でもある。震災で住居と三万冊の蔵書を失ったが、旧制二高の教え子や市民が先生のために建てたのが、この草堂である。30人ほどの生徒と一緒に教室で撮った写真がある。それが何ともいえず敬愛と友情に満ちていて、見ていて心があたたかくなった。

自分たちの先生が誠実に研究に励むのはもちろん、その才を発揮し国民的詩人として名をあげ、その目の前の師の深い教養から日々薫陶を受けるとは、どんなにか誇らしいことであつたらう。一枚の写真がそれを物語っている。

しかし今日、この「薫陶」や「教養」といった言葉は、ほとんど死語になりつつある。これらの言葉が示すような、人間や人間間にある豊かな関係やそれを表現する言葉は、今や消滅しつつある。つまり、近代の幾何学的精神の現代版であるステレオタイプ思考やデジタル思考が、「気配」や「思い」といった、人間の知と感性の繊細で豊かな領域を追放してしまった。

(2) 教養と言葉

それにしてもこの半世紀、「教養」という言葉も随分軽くなったものだ。旧制高校や岩波文庫に代表される人格主義的な教養はもう古いといわれ続けてきた。戦後社会において知がどんどん機能化・専門化・大衆化していくなかで、かつての教養は高踏的で時代とミスマッチだとされてきた。

しかし、知には目的や理念に関する知と、手段

や技術に関する知があるはずだ。実は両方とも必要なのだが、今日後者だけがますます偏重され、前者を育む教養は、まるで無用の長物のように扱われている。もちろん現代の知は高踏的であつたり世間と無縁であつたりしてはならない。実は今こそ実践知や臨床知が求められているのだが、それは、しっかりした目的や理念に関する知（教養）に支えられなければならない。具体的には、私たちはこの根本的な知恵と高度な知識でもって地域の現実の課題と向き合つてこそ、私たちの知を本物にしていくことができる。目の前の具体的な課題を解決して私たちの知を日々自己変革していくという「知の循環」の中にこそ、これからの大学の存在理由がある。

教養と同様、今日ますます言葉が軽くなった。いうまでもなく、わが国で言葉は言霊（ことだま）という魂のこもったものとされてきたし、欧米でも「契約」はキリスト教以来の言葉の神聖性によって担保されてきた。それが今日、永田町の政治の言葉も携帯の会話やファーストフード店のマニュアル語も、目をおおいたくなるほど軽い。政治についていえば、利益政治（インタレスト・ポリティックス）で既に結論を決めていて、言葉や討論による合意形成の必要はないといわんばかりである。そのような場合、言葉は虚構と化しい纏いの道具となる。

言霊の幸（さきは）うこの国で、いま言葉が衰弱しつつある。人間の交わりの力も知の力も弱りつつある。公共性とは開かれた自我を前提とするが、これがまるで閉ざされ立ち竦んでいるかのようだ。過度の自由主義や功利主義つまりは近代（化）の行きつく先がこの姿である。私たちはどうやって共同性や公共性を回復できるか、それが

今日の私たちの最大の課題である。「いま言葉に力はあるか、文学に力はあるか」とは、最近石牟礼道子さんがよくいわれることだ。私たちは先ず、言葉に力を取り戻すことから始めなくてはならないだろう。

(3) 石牟礼道子さんを訪ねて

先日、「公共哲学フォーラム京都」に参加した研究者や編集者で、作家・石牟礼道子さんを訪問することになった。『石牟礼道子全集・不知火』（全十七巻、藤原書店）の刊行が開始されたばかりのお忙しい時期だが、石牟礼さんには、朝一時間ほどいただいた。とてものおびやかで楽しいお話をうかがうことができた。

話は、幸福についてである。私たちは「間を生きる」、あるいは間にある「場」としての公共性に関心があるのだが、話はそこから、「石牟礼さんはどんな時が幸福ですか」という質問になった。石牟礼さんの答えがまた素敵で、自分が風となって吹かれているとき、自分が感受性に満ち満ちて宇宙と一体化していると実感している時が一番幸福だといわれるのだ。つまり、小さな自我を超えて、つまり自我と対象との対立を超えて宇宙や自然と一つになったときに幸福になる。そのとき人間は、大きな存在の一部となって風のようにともにそよぐのである。そこで私たちは、大きな存在とともにある安らぎと真の自由を獲得するのである。

私たちはいま、自己中心の小さい近代の知を超えなければならない。もっと心と感覚を開いて、「もだえ神さん」のような最も繊細で敏感な共感能力や想像力を取り戻さなくてはならない。これこそ、「義によって」その半生を水俣病の患者さんへの支援に捧げた石牟礼さんに代表される、日本の基層民が本来もっていた心情ではなかったか。

私たちはいつから、上は政治家をはじめとしてかくも魂のこもらない軽々しい言葉で話す人間に



いわおか なかまさ 法学部教授・図書館長

主著：『詩の政治学—イギリス・ロマン主義政治思想研究』（木鐸社 1990）

『転換期の俳句と思想』（朝日新聞社 2002）

【写真：熊本日日新聞 平成16年4月30日付より】

なってしまったのか。もっと自然やいのちへの畏敬を通して人と人とが真に心を通わせることができる言葉と場を回復せねばならない。「私は、風にそよぐ雑草の一本として精霊の物語を伝えていきたい」という石牟礼さんの素敵で心に残った。この日私たちは石牟礼さんと同じ風に吹かれて、その魂の物語を聴くことができた。

学術情報経費の新設

学生や研究者に安定した学術情報の提供をすることは、大学図書館における重要な基本機能のひとつですが、その基盤となる経費の確保について本学では16年度から学生用図書費、データベース経費、電子ジャーナル経費を包含した「学術情報経費」という予算事項が設置されました。

これによって、安定的かつ計画的な資料購入が行えるようになり、より効率的な資料整備計画を立てることが可能となりました。

特集 電子ジャーナル Shock!

今日の学術文献の入手について

—電子ジャーナル・データベース雑感

高木 貞治

先日、熊大病院から民間の病院に転職されたという、ある先生から私のところに電話による問い合わせがありました。それは「PubMedの電子ジャーナルサービスを自分の新任地での病院で利用契約したい。そのため、このサービスはどこで取り扱っているか教えて欲しい」というものでした。

PubMedとはAMA（米国医学会）が作成している医学生命化学分野における最大のデータベースであるMedlineを、その名のように無料で（public）に公開しているものです。

そこで、「PubMed自体は無料ですので熊大以外のところからも利用可能です」とお答えしたところ、「PubMedでの医療文献の検索は自分のところで使えるのはわかっているが、熊大にいるときはそこから検索した論文そのものをワンクリックで容易に入手できた。フルテキストまで利用できるPubMedのサービスが契約したいのだ」と言われました。ここまできてやっと私にも問い合わせの趣旨が理解できました。

先生の方では、無料のPubMedの検索システムに加え、PubMedを提供している機関か代理店に契約申込みすることで、PubMedに掲載されているいろいろな出版社の提供する様々な雑誌のフルテキストにアクセスするサービスが存在していると思います、そのサービスを利用したいと考えていたのでした。

このような便利な一括サービス契約は、残念ながら存在しません。しかし、熊本大学ではPubMedを利用して検索し、その論

文をワンクリックで本文まで利用できる環境を整えていますので、あたかも一つの一括したサービス契約と考えられたのでしょうか。

熊本大学では、Elsevier, Wiley, Blackwell, Springer など大手出版社の雑誌やNatureやScienceなど利用の多い個々の雑誌について電子ジャーナル契約をしています。

これによって熊本大学では、前述の先生が体験されたような、データベースを検索してそのままフルテキストまで閲覧し、プリントアウトできるという環境が出来上がっています。下図はPubMedで「Sars」というキーワードで検索しヒットした論文のひとつをアブストラクトまで詳細表示させた画面例です。ここまでは、インターネットに接続している環境があれば、どこからでも無料で利用できます。

この論文のフルテキストを利用したい場合は、この場合「Wiley InterScience」のロゴマークをクリックするだけで簡単に入手することができるのです。このサービスを受けられるのは、Wiley



社と利用契約している機関や個人に限られます。同様に検索した結果、「ScienceDirect」「Blackwell」「nature」などのロゴマークが示された場合も、クリックするだけで（熊本大学内であれば）フルテキストまで入手可能です。

このような論文を入手するまでの手続きについて少しだけ過去に遡ってみると、将に隔世の感があります。その頃、医学関係であれば、Medlineの冊子体であるIndex Medicusという分厚い抄録誌を何冊もめくって該当論文を検索しなければなりませんでした。Index MedicusはMesh（Medical Subject Heading）という優れた統制語に従ってインデックスされている抄録誌であります。これを手作業でめくって必要論文をくまなく検索するためには根気と膨大な時間が求められます。さらに、この作業によって探した論文を入手するためには、抄録誌からタイトルや収録雑誌と巻号・ページなどを書き止めて、その雑誌を所蔵しているか否か、所蔵目録による確認が必要でした。もし所蔵していれば図書館や研究室に足を運んでコピーし、また所蔵していない場合は図書館の文献複写サービスなどを利用して、所蔵している他大学から一件一件郵送で取り寄せるという手続きが必要でした。

このように根気と時間と手間のかかっていた文献検索から入手までの作業が、今日では研究室にいながらにして、パソコンのキーボードで検索語を入力しマウスをクリックしていだけで、文献を入手できる環境となっているのです。

データベースを検索してそのまま文献まで入手できるという仕組みはPubMedだけでなく、有料で熊本大学が契約しているSciFinderやWeb of Science, OVID Medlineなどでも可能となっています。また電子ジャーナルの論文中に掲載している引用文献でもダイレクトリンクが貼っているもの

が増えてきたため、論文から引用論文にそのまま芋づる式に入手していけることも多くなってきています。

今日では当たり前のようにアクセスし利用できる学術文献の利用環境は、ここ数年のインターネットとテクノロジーの急速な発展で成し遂げられたものです。もちろん現在でも、ネットワークで提供されていない文献やリンクがうまく貼られていない文献、残念ながら熊本大学がまだ利用契約していない電子ジャーナルなども多く存在します。しかし、データベースや電子ジャーナルのサービスが、熊本大学の教育研究の上でなくてはならないものとなっていることに異論はないでしょう。

急速に発達した学術情報の利用環境を多くの研究者や大学院生、学生の方々に使いこなしていただき、熊本大学における研究と教育がさらに進展することを期待しています。

（たかき ていじ 電子情報係長）

【表紙の言葉】

今号からタイトルデザインを変更しました。永年にわたり使用させていただいた旧タイトル（画及び題字）の作者北野隆工学部教授には衷心より感謝の意を表したいと思います。

さて今号の表紙写真は、当館所蔵「ちりめん本」の中からラフカディオ・ハーンのちんちん小袴を選んでみました。ハーン没後100周年にあたる今年は、大学内外を問わずさまざまな催しが行われる予定となっています。

特集 電子ジャーナル Shock!

図書館諸統計 平成15年度

【解説】電子ジャーナルの利用が拡大するのに伴い、図書館間の相互利用による文献複写件数が減少するのではないかと予想されていたが、熊本大学においてもややその傾向を表しはじめたようである。特に欧米誌に対するニーズの高い医学部、薬学部の両分館で減少が顕著であることは、現時点における電子ジャーナルのほとんどを欧米誌が占めていることから見て当然のようにも思われる。今後の展開に注目したい。

I. 利用統計

(1)開館日数・入館者数・貸出冊数

	中央館	医学部分館	薬学部分館	計
開館日数	328	330	326	984
時間外開館日数(内数)	281	301	279	861
入館者数	346,078	128,437	80,767	555,282
時間外入館者数(内数)	112,998	40,487	20,870	174,355
貸出冊数	60,005	6,053	1,886	67,944

(2)相互利用(他大学等との現物貸借・文献複写)および学内文献複写

	中央館	医学部分館	薬学部分館	計	
現物貸借	依頼冊数	748	19	8	775
	受付冊数	363	10	5	378
文献複写	依頼件数	3,809	1,985	663	6,457
	受付件数	1,411	2,407	680	4,498
学内での文献複写		1,262	230	208	1,700

(3)貴重書等の利用 [中央館]

	松井文庫	北岡文庫	その他
利用者数	36	301	22
利用件数	317	5,932	198

(5)視聴覚資料の利用 [中央館]

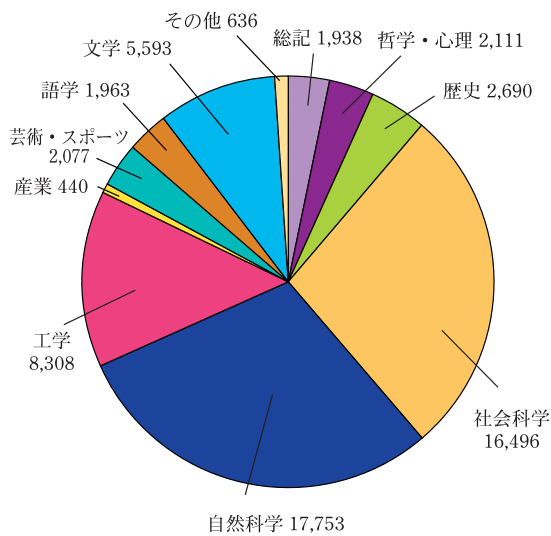
ビデオ・LDの利用件数	1,562
CD-ROM*の利用件数	6

*スタンドアロンのみ

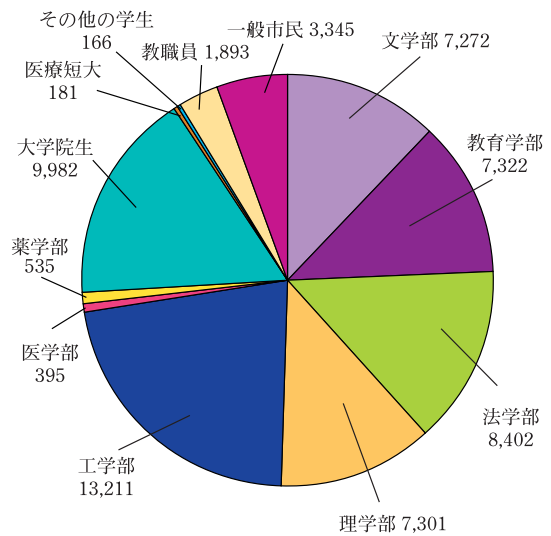
(4)OPAC(蔵書検索システム)の利用

利用件数	212,910
------	---------

(6)分野別貸出冊数 [中央館]

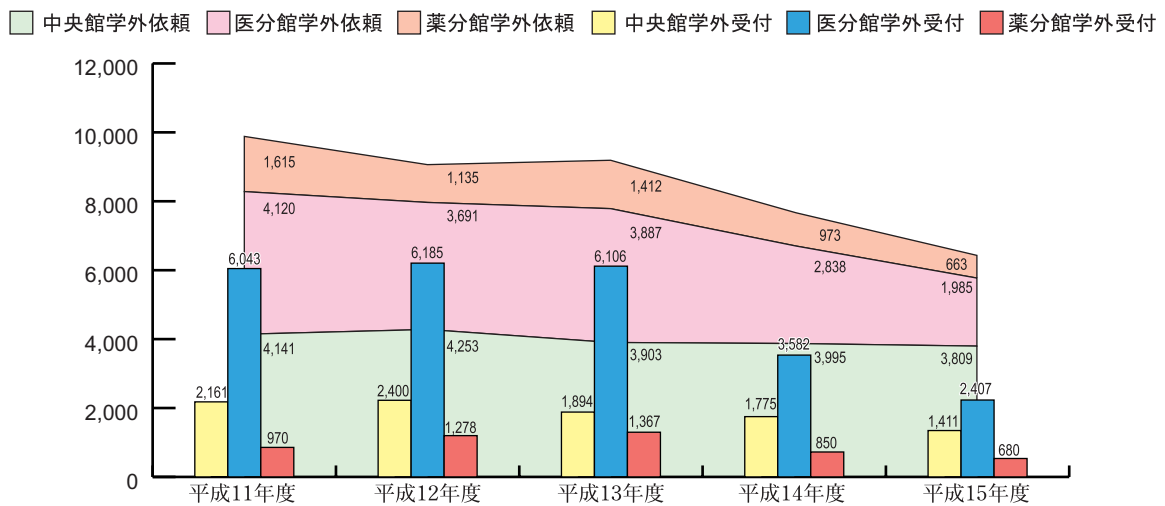


(7)学部別貸出冊数 [中央館]

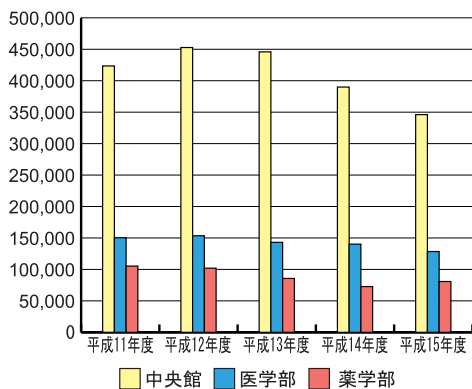


II. 年次推移 (平成11~15年度)

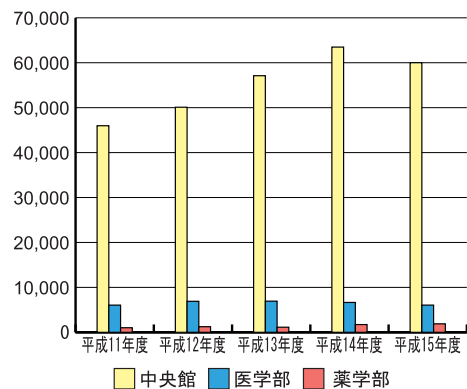
(1)他大学との相互利用 (文献複写) 件数の変化



(2)入館者数の変化



(3)貸出冊数の変化



Ⅲ. 受入統計

(1)年間受入冊数

		中央館			医学部分館			薬学部分館			計
		購入	寄贈等	小計	購入	寄贈等	小計	購入	寄贈等	小計	
図書	和漢書	5,762	142	5,904	162	0	162	212	73	285	6,351
	洋書	976	1,449	2,425	1,220	0	1,220	29	12	41	3,686
	計	6,738	1,591	8,329	1,382	0	1,382	241	85	326	10,037
雑誌	日本語	1,055	0	1,055	165	528	693	51	77	128	1,876
	外国語	1,221	0	1,221	447	125	572	59	0	59	1,852
	計	2,276	0	2,276	612	653	1,265	110	77	187	3,728
新聞	日本語	9	0	9	4	0	4	6	3	9	22
	外国語	2	0	2	1	0	1	0	0	0	3
	計	11	0	11	5	0	5	6	3	9	25

(2)蔵書数

		中央館	医学部分館	薬学部分館	計
図書	和漢書	714,367	69,647	15,806	799,820
	洋書	345,995	103,004	21,176	470,175
	計	1,060,362	172,651	36,982	1,269,995
雑誌	日本語	9,686	1,826	479	11,991
	外国語	3,987	2,425	409	6,821
	計	13,673	4,251	888	18,812

ニュース 阿蘇家文書第32巻の修復

本学所蔵の国指定重要文化財「阿蘇家文書」第32巻の修復が完了しました。この修復によって「阿蘇家文書」は、残すところ第33・34巻の2巻が修復を待つのみとなりました。なお今回の修復については、財団法人住友財団から一部助成を受けて実施しました。



実施報告 基礎セミナー図書館ガイダンス

附属図書館では毎年4月に、館内ツアーを中心とした「新入生対象図書館ガイダンス」を行っています。

今年度はより多くの新入生に図書館の基本的な利用方法を修得してもらうための新たな試みとして、基礎セミナーの授業として、図書館職員による講義形式の「図書館ガイダンス」を実施いたしました。このガイダンスは、教養教育実施機構の協力の下、基礎セミナー担当の先生方のご理解を得ながら、授業の一コマに「図書館ガイダンス」を取り入れていただく形で実現したものです。

実施回数：全6回（4月22日5限、4月23日3、4、5限、4月30日3、4限）

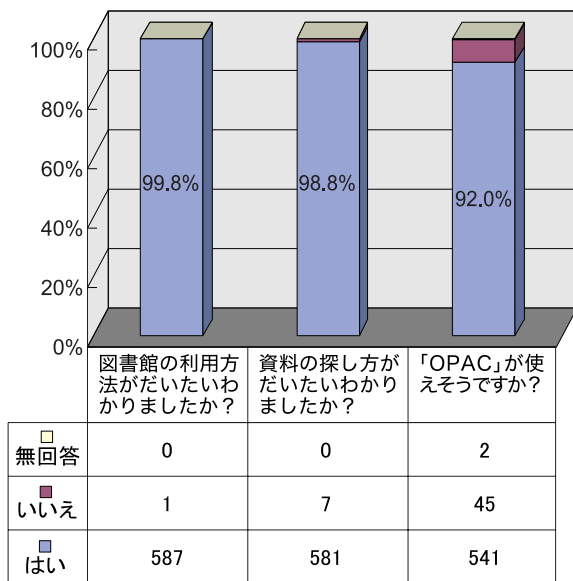
受講クラス数：35クラス

総受講者数：588名

講義会場：大学教育センター棟 C301教室

講義内容：パワーポイントを用いたプレゼンテーション形式の講義（約50分）附属図書館の概要、図書館利用案内、資料の探し方、蔵書検索（OPAC）の使い方、図書館ホームページの紹介など

図1 学生アンケート



受講した学生へのアンケート結果（図1）では、今回のガイダンスで目標としていた3つのポイント（①図書館の利用方法を知る、②資料の探し方を知る、③OPACの使い方を知る）を概ね達成できた結果となりました。また、教員へのアンケート結果（図2・図3）では、ほとんどの先生方からある程度良い評価をいただきました。

今年度は基礎セミナー前期開講104クラス中35クラスに参加いただきましたが、来年度はさらに改善を重ね、より多くの新入生に「図書館ガイダンス」を受講していただけるよう努力していきたいと考えています。関係者各位のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

（電子サービス係）

図2 ガイダンスの内容

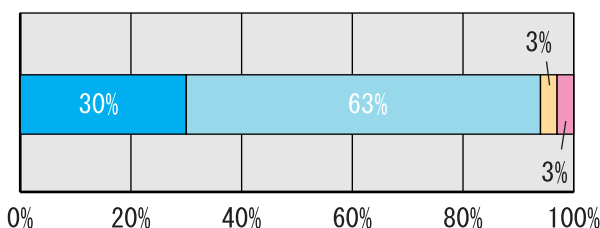
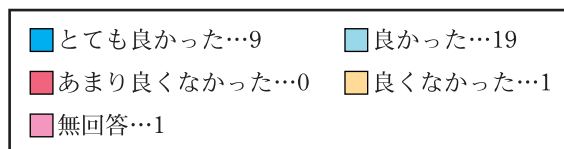
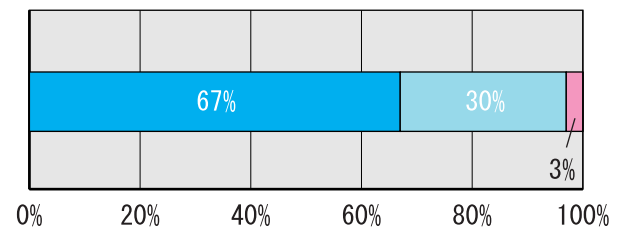
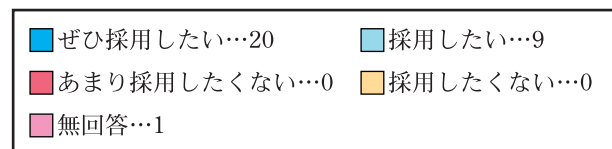


図3 次年度以降の採用



委員会報告

最近の主要なテーマ

運営委員会

■平成15年度第4回附属図書館運営委員会（2月19日）

1. 学術情報基盤整備について
2. 国立大学法人熊本大学の制度設計への対応について

■平成16年度第1回附属図書館運営委員会（4月27日）

1. 平成16年度学術情報経費について
2. 平成16年度専門委員会について
3. 平成16年度学術資料調査研究推進委員について

専門委員会

■平成15年度第1回附属図書館専門委員会（1月21日）

1. 学術情報基盤整備について

■平成15年度第2回附属図書館専門委員会（2月6日）

1. 学術情報基盤整備について

■平成16年度第1回附属図書館専門委員会（5月18日）

1. 平成16年度電子ジャーナル関係の外国雑誌について
2. 平成17年度電子ジャーナル、データベースに関する検討課題について

■平成16年度第2回附属図書館専門委員会（6月17日）

1. 平成17年度以降における電子ジャーナル導入の基本方針について
2. 平成17年度外国雑誌購読調査について
3. その他

医学部図書委員会

■平成16年度第1回医学部図書委員会（5月21日）

1. 平成15年度決算（案）報告について
2. 平成16～17年度の学術情報基盤経費について

■平成16年度第2回医学部図書委員会（6月10日）

1. 平成16年度予算（案）について

薬学部図書部会

■平成16年度第1回薬学部図書・情報委員会図書部会（5月25日）

1. 平成15年度決算報告
2. 平成16年度予算（案）

平成16年度熊本大学附属図書館 運営委員会委員

法学部	館長	岩岡中正
医学部	分館長	小川 尚
薬学部	分館長	中山 仁
文学部	教授	福澤 清
教育学部	教授	堀畑正臣
法学部	教授	伊藤洋典
理学部	教授	西野 宏
工学部	教授	山尾敏孝
大学院社会文化科学研究科	助教授	秋吉貴雄
大学院自然科学研究科	助教授	伊藤重剛
大学院法曹養成研究科	助教授	水元宏典
医学部附属病院	助教授	高田 彰
教養教育実施機構	教授	西川盛雄
医療技術短期大学部	教授	石丸靖二

人事異動（平成16年1月～6月）

■採用（平成16年4月1日付）

学術研究協力部学術情報課電子情報係

後藤 友紀

■異動（平成16年4月1日付）

山形大学附属図書館情報管理課長

加藤 信哉（附属図書館情報サービス課長）

八代工業高等専門学校庶務課図書係長

濱崎 千雅（附属図書館情報管理課雑誌情報係）

総務部評価課評価係長

竹林 克己（附属図書館情報管理課総務係長）

学術研究協力部長

高塩 勝也（附属図書館事務部長）

学術研究協力部図書館サービス課長

柿本 義行（鹿児島大学医学部・歯学部附属病院総務課長）

学術研究協力部図書館サービス課副課長

浦田 博臣（附属図書館情報管理課図書情報係長）

学術研究協力部学術情報課学術情報企画係長

緒良中忠義（医学・薬学等事務部調達管理課専門職員）

学術研究協力部学術情報課図書情報係長

川内野祐子（八代工業高等専門学校庶務課図書係長）

学術研究協力部図書館サービス課医学情報サービス係長

永村 典子（附属図書館情報サービス課資料サービス係長）

学術研究協力部図書館サービス課資料サービス係長

成田 和則（附属図書館情報サービス課電子サービス係長）

学術研究協力部図書館サービス課医学情報サービス係

中川 智之（附属図書館情報サービス課相互利用サービス係）

学術研究協力部学術情報課雑誌情報係

田川登紀子（附属図書館情報サービス課医学情報サービス係）

学術研究協力部図書館サービス課電子サービス係

森下 和博（附属図書館情報管理課電子情報係）

学術研究協力部図書館サービス課相互利用サービス係

水本美智子（附属図書館情報管理課総務係）

■退職（平成16年3月31日付）

梅尾 勝征（附属図書館情報サービス課専門員）

福島 勲（附属図書館情報サービス課医学情報サービス係長）

* 国立大学法人熊本大学の発足に伴い、附属図書館情報管理課は学術研究協力部学術情報課、附属図書館情報サービス課は学術研究協力部図書館サービス課となった。



訃報

高塩勝也氏は平成16年4月13日午後12時15分緊急入院先の日赤救命救急センターで逝去されました。享年59歳。氏は平成10年4月に本学附属図書館情報管理課長として赴任され、平成12年4月、九州大学附属図書館情報管理課長に転任された後、平成14年4月から本学の附属図書館事務部長として再び赴任され、永らく図書館行政に尽力してこられました。特に本年4月からは、国立大学法人化に伴い大学事務組織が再編成され、従前の研究協力課、国際交流課、留学生課、情報管理課、情報サービス課の機能を統括した学術研究協力部の部長として精勤されました。新時代に向けた新しい大学としての足元を固める重要な時期でもあり、氏の力量を存分にご發揮いただけるものと期待されていただけに惜しまれてなりません。ここに謹んで哀悼の意を表します。

日誌 (平成16年1月～6月)

- 1/16 九州地区国立大学図書館パネルディスカッション (九州大学)
- 1/21 第1回附属図書館専門委員会
- 1/21-22 九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議 (宮崎大学)
- 1/22 国立大学図書館事務部長会議 (富山市)
- 1/29 第7回電子ジャーナル・タスクフォース会議 (千葉大学)
- 2/6 第2回附属図書館専門委員会
- 2/9 熊本県大学図書館協議会実務者研修セミナー (熊本学園大学)
- 2/19 第4回附属図書館運営委員会
- 3/1 日本薬学図書館協議会九州地区会議 (第一薬科大学)
- 4/1 国立大学法人熊本大学設立
- 4/5-16 図書館ガイダンス (入門編)
- 4/22 九州地区国立大学図書館協議会総会 (福岡市)
- 4/22-23,30 基礎セミナー図書館ガイダンス
- 4/23 九州地区大学図書館協議会総会 (福岡市)
- 4/27 第1回附属図書館運営委員会
- 5/7 熊本県大学図書館協議会 (熊本学園大学)
- 5/18 第1回附属図書館専門委員会
- 5/20 国立大学図書館協会理事会 (東京大学)
- 5/20 国際セミナー (九州大学)
- 5/21 第1回医学部図書委員会
- 5/21 熊本ルネッサンス「肥後学」講座
- 5/25 第1回薬学部図書・情報委員会図書部会
- 5/31 第1回附属図書館係長会議
- 6/5 第23回インターライブラリースポーツ親善大会 (熊本学園大学)
- 6/9-11 目録システム地域講習会
- 6/10 第2回医学部図書委員会
- 6/17 第2回附属図書館専門委員会

寄贈された本学教員の著書

— ASPECT 熊大のコーナーに配架されています —

池田 光穂 (文学部)

特集東南アジアにおける伝統音楽の観光化
熊本大学文学部文化人類学教室

岩岡 中正 (法学部)

ホトトギス—虚子と100人の名句集

稲畑汀子編著

近代をどう超えるか：渡辺京二対談集

渡辺京二著

不知火：石牟礼道子のコスモロジー

石牟礼道子著

江上 寛 (小川道雄教授退官記念事業)

The biological response to planned and unplanned injuries : cellular, molecular and genetic aspects : proceedings of the 19th Kumamoto Medical Bioscience Symposium, held in Kumamoto, Japan, between 7-8 November 2002 editors, Michio Ogawa, Tetsuro Yamamoto, Masahiko Hirota

上西川原 章 (名誉教授)

シラーの生涯：その生活と日常と創作

ペーター・ラーンシュタイン著：上西川原 章訳

東光原：熊本大学附属図書館報
第39号 平成16年7月刊

発行 熊本大学附属図書館
〒860-8555 熊本市黒髪2丁目40番1号
TEL: 096 (342) 2273 FAX 096 (342) 2210

編集 柿本義行 浦田博臣 秋吉陽一郎
伊波ひとみ 坂崎直美 大倉 桂

URL <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>
